

# 国際

# こだいら



2009年  
No.59

*Kodaira International Friendship Association News*



小平市国際交流協会の機関紙です。  
ご自由にお取り下さい。



**Join us!**  
<http://www.kifa-tokyo.jp/>



興味を持たれた方はお気軽に  
ご連絡下さい。お待ちしております。



ゆかたで楽しむ夏祭り 7月25日(土)



立川防災館体験ツアー 7月24日(金)



こだいら市民祭り 10月18日(日)



小平市内ツアー 10月24日(土)

世界の料理 **ウクライナ** 10月30日(金)



まだまだ続く食欲の秋、この日のメニューは“ボルシチ”に“チキン・キエフ”、“シルニキー”の3品。教えて下さるのは日本人と結婚されて3年、青い瞳がチャーミングな、ターニャ・ザベワリナさんです。「自分が小さい頃から食べてきて、おいしいと思った料理を皆に教えたい」と持参の千切りカッター付きピーラーを片手に丁寧に教えて下さいました。まずは“チキン・キエフ”。肉は出来るだけ薄く切り開いて大きくしてスパイシーに。みじん切りのパセリ・ディル、バターをロールキャベツのように包み、パン粉をつけてオーブンに。その間に“ボルシチ”を作ります。ウクライナの冬は寒いので、

カロリーが高く体の温まるボルシチをよく食べるようです。“カロリーが高い”と聞いてドキっとしていたのは私だけでしょうか？

ボルシチに入れる人参、ピーツは先生自慢のピーラーで見事な千切りに。ピーツを入れると見る見るうちに赤いスープに変化。鍋いっぱいにしたので、おかわりしても余るほどでした。(持ち帰りたいなァ……)

そして最後に“シルニキー”というカロリー低めのカッテージ・チーズが主役のパンケーキ。材料がやわらかいので、フライパンに非常にくっつきやすく、ひっくり返すのも大変。ケーキの上にプレーンヨーグルトとジャムをのせて食べてみました。それらが口の中でミックスして優しい味に。

試食後は恒例の国の話や質問で盛り上がりました。ターニャさんが見せてくれたマイナス15℃になった年の凍てつく町の写真にはびっくり。「塩や砂糖を多めに入れるのが好き」とターニャさんはおっしゃっていましたが、料理は、どれも食べやすく参加者は満足して帰られたと思います。

# インタビュー カンボジア



ブン・ハイさんは、身長180cmのイケメン！  
現在一ツ橋大学、大学院で経済学修士課程を勉強されています。

◎ご出身は？

カンボジアの首都プノンペンから120km離れたコンボンチャムというところ。日本で言うと東京に近いところ。横浜みたいところ。

◎留学の目的は何ですか？

国際経済の勉強のために来ました。

◎勉強のために日本を選んだ理由は？

文部科学省の奨学金で日本にきました。奨学金はいくつかの国から選べましたが、日本が一番人気が高く、奨学金を得るために中学2年から塾で英語を勉強しました。欧米でなく日本を選んだ理由は、同じアジアという意味で慣れやすいと考えたからです。

◎日本語はいつから勉強されたのですか？

6年前に日本に来てから勉強しました。

◎趣味は？

サッカー・テニス・水泳・最近はゴルフもします。カンボジアでは学校をさぼって任天堂のカセットでテニスゲームをしてました。すごく面白かったですよ！テニスは将来ビジネスでテーブルの外での付き合いで大切だと思うから今しっかり基礎を教わってもらってます。

◎日本に来てカルチャーショックはありましたか？

一番驚いたのは女性の日傘です！カンボジアでは雨の時しか傘をさしません。カンボジアは日よけのために帽子をかぶりますが日傘を差すことは決してないです。もう一つは一般の女性の化粧が濃いことです。カンボジアでは日本人ほど化粧をしません。



◎日本とカンボジアの文化の違いを感じたことは？

日本人は優しく、責任感が強い。一番の違いは日本人はチームワーク力が強いこと。カンボジア人は自己主張が強くよく喧嘩してチームワークが取れないですね。

◎日本で一番好きな場所は？

大阪・京都・奈良・山口・千葉・兵庫・山梨・・・いろんなところに行きましたが、一番好きなのはやっぱり六本木！(笑) パーとかじゃなくて、夏の夜のミッドタウンの後ろの日本庭園が一番好きです。あと花火も大好きです。

◎ところで今何歳ですか？

昭和58年生まれ！(笑)、26歳です。

◎将来の夢は

僕は勉強する人生はこれで終わりになりますが、むこうに帰ってから仕事を探すつもりです。金融・投資などとても興味がありますが、どんな仕事でもチャレンジしてトップになりたい。

インタビューを終えて、今の日本の若い人にはない確固たる夢と野心を持つカンボジア青年ブン・ハイさんにまぶしさのようなものを感じました。いつか日本とカンボジアの経済の架け橋になって活躍してくれることを祈ります。とても楽しいインタビューでした！

## 国際子どもクラブ 新疆ウイグル自治区



10月3日(土)の異文化理解講座は、新疆ウイグル自治区出身のアマハッティ・ニヤズさんを講師に迎えて行われました。今回、運動会シーズンと重なり、受講する子供達がいつもの半数になっていましたが、ニヤズさんの情熱的なお話に、子供達は釘付けでした。ニヤズさんは初来日してから約20年。今は3回目の来日で、博士号取得のため埼玉大学大学院で勉強なさっています。将来の夢は、本を二冊出版する事で、一冊は“会社”に関するもの、もう一冊は“日本の良いところ”について書きたいそうです。日本は平和で人が優しいから大好きなんですって！ニヤズさんはこの20年間に日本の店頭には並ぶ製品がだんだん他国の物にとって代わられている様子に、強い懸念を持っています。最

近、小平のホームセンターでも中国製冷蔵庫を発見し、日本製品のもてはやされる時代は過ぎつつあると実感したそうです。そこで、将来を担う日本の子供達に熱いエールを送ってくれました。“ウイグルでは良い学校に通えない子供もいるけど、日本はとても恵まれている。皆さん、将来、強い人間になるには、世界に出て行ってたくさん勉強してください。そうすれば必ず、素晴らしい人間になれるから！！！”

それから、ご家族の紹介もして頂きました。ニヤズさんのお父様は、熱心な教師だったそうです。ウイグルでは生徒全員が100点を取れるまで教えるのだそうですよ。スゴイ！そして、お父様の写真を見て、またびっくり！だって、顔がそっくりなんですもん。質疑応答の時には、世界の石油埋蔵量について、ひとりの男の子がニヤズさんとりっぴに渡り合っているのを見て、“いいぞ！日本の未来は、キミにかかっているぞ！”と、誇らしく思ったワタクシでありました。



第14回目の教室におじゃましました。講師は日本で暮らされもう10年以上の<sup>ワシケン</sup>王紅先生です。出席者に受講の動機を質問すると「中国語はこれから必要なので」「近いから遊びに行きたい」「時間ができて」等のお返事。先生のあとに続き発音する時みんなの声はよく揃っていて、繰り返し練習されていることがわかります。ペアでの対話練習・基本文型とその応用練習・・・と進行していく合間に先生は「書いてください。書いて書いて、書きながら文を通して覚えてね。」と何度も声かけをされていました。みなさんご用意の、筆記練習用紙があったという間に埋まっていきます。



クラス終了後に感想をお尋ねすると「発音が難しい」に続き「漢字が難しい」という声が多く聞かれました。同じ字形でも日本とは意味が違うものもあるし、また日本のような「ひらがな・カタカナ」は無く、全て漢字で表記するため自由に使いこなすには最低でも4~5千字は覚える必要があるそうです。先生は「共通の漢字もあるから、手がかりになります。日本人にとって一番難しいのは、やはり発音でしょう。中国語の発音領域は広いので。」とおっしゃっていました。中国語には英語字母(ローマ字)を使って音を表記する「ピンイン」があります。文字と同時に四つの異なる声の調子「四声」を学びます。日本語テキストの中には、カタカナで音を表しているものもあるけれど、カナは一時しのぎ。本格的に覚えようとするならピンインから、とのこと。

“中国語の世界”へと、爽やかに着実にみんなを引っ張って行ってくださる王先生からのメッセージです。「クラスを見てみんなの意欲には感動するし、その姿に教えられるものがあります。クラスを通じて中国の文化・歴史の理解や交流の役に立てばいいと思います。」

いけ花入門初日にお邪魔しました。生徒は中国・ウズベキスタン・韓国・ドイツ・スウェーデン・メキシコの方々。女性ばかりでなく今回はドイツ人男性の嬉しい参加もありました! 「いけ花は最も身近で親しみのある日本の伝統文化です。どこの国にも植物はあるでしょう?ですからしっかり覚えて帰って自分のお国でもいけ花をしてくださいね。」という先生の挨拶に始まり、その歴史、道具・花材の説明。難しい言葉と漢字が登場し、みな神妙な面持ちでしたが、先生方のご指導のもと、いけ始めると、もうみんな夢中です。「花は自分に微笑んでくれる角度を見つけると上手にいけられますよ。」わかり易いアドバイスでより一層良くなっていきます。最後にはそれぞれの作品の出来上がり。「先生と同じようにいけたはずなのに?」みな不思議そうであり満足げであり。感想を聞いてみました。「いけ花が習いたくて、今日が来るのをずっと楽しみにしていました。」「私の国には剣山が無いのでぜひ持って帰りたいです。」「日本語がまだよくわからなくて先生のお話が全部聞き取れないのが残念でしたが、このひとときを楽しめました。」みなさん心豊かな時間を過ごされたようです。

「いけ花は相手を思いやる形です。」技も大切だけれど、その精神も大いに学んで欲しい。そんな先生方の思いがこれから回を重ねるごとに伝わりそうです。



編集後記

食欲の秋。寒くても、スーパーで鍋の具材を見るだけで心が躍ってしまいますね。さて、お休み中の機関紙ボランティア Mさんに女の子が生まれました。拍手! その穴を埋めるべく、新人のAさん、最初から大活躍でした。拍手! よし、私もがんばるぞ〜。って、何を?…とりあえずダイエットです。…無理。(N)

発行日 平成 21 年 12 月 1 日  
発行 小平市国際交流協会  
編集 機関紙グループ  
〒 187-0045 小平市学園西町 2-12-22  
学園西町地域センター 3 階  
☎042-342-4488 / FAX. 042-347-3003